

経営比較分析表（令和元年度決算）

福岡県 筑後市

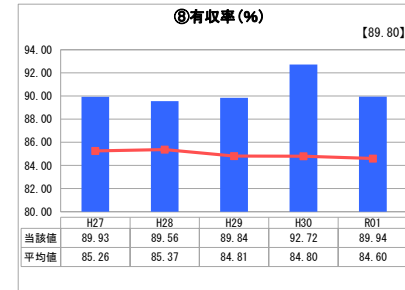
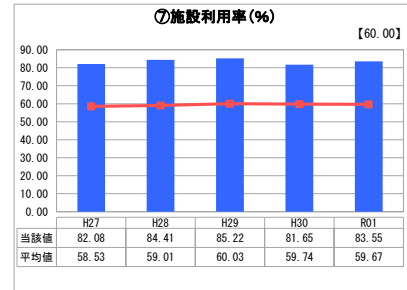
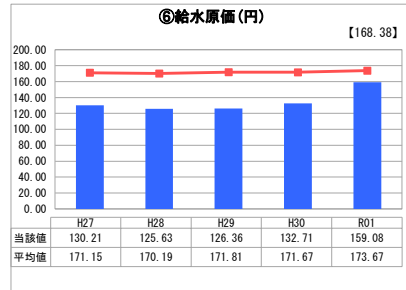
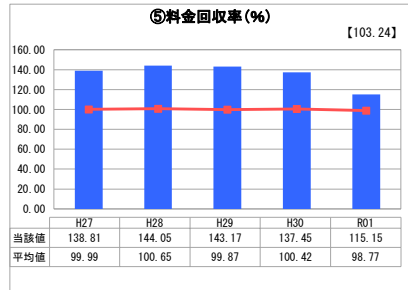
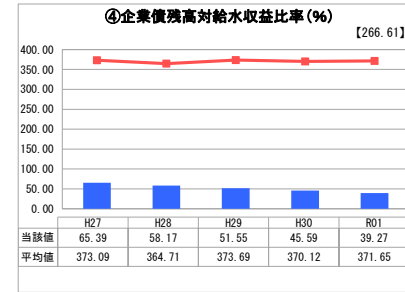
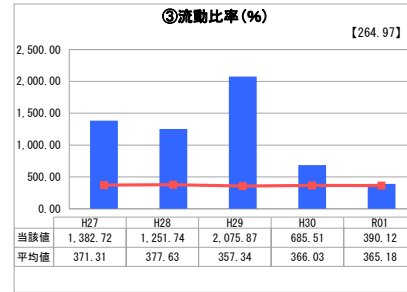
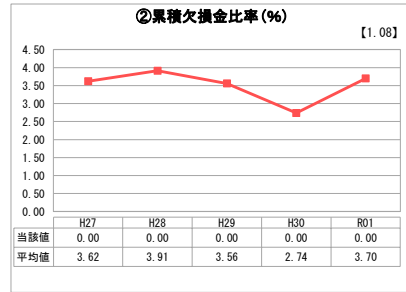
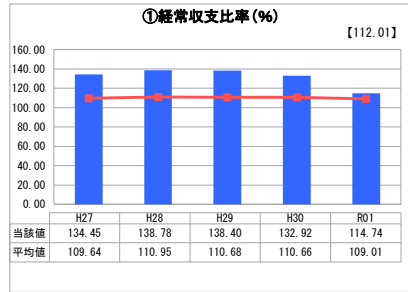
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)	
-	88.04	79.92	3,580	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
49,519	41.78	1,185.23
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
39,913	41.85	953.72

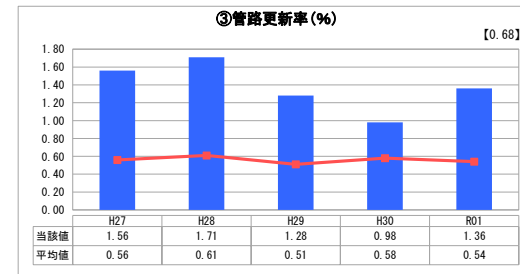
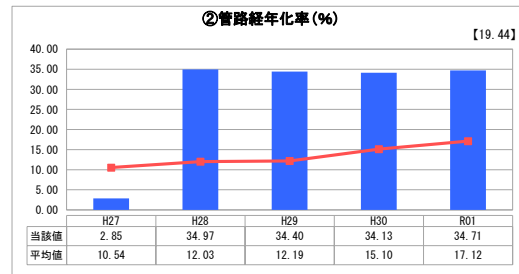
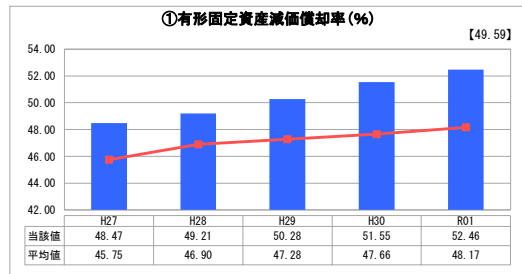
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率や累積欠損比率等から、健全で効率的な経営状況であるといえる。経常収支比率の低下や給水原価の上昇、料金回収率の低下については、退職給付費を一括計上したものであり一過性の状況と言える。有収率は昨年度に比べ低下したが、例年どおりの数値は達成している。施設利用率については、以前高い数値を示しており適正な施設運用がなされている。今後はさらなる有収率改善をめざし収益を上げていかなければならない。建設改良費の増加に伴い流動比率は低下したが、必要な投資を適切に行っており、全体としては概ね安定し効率的な運営がなされているものと判断できる。今後の人口減少等による給水収益の動向について引き続き検討する必要がある。

2. 老朽化の状況について

減価償却率が年々増加しているため、管路更新事業として計画的に進めているが、管路経年率は依然高い数値を示している。管路更新率からみるとさらなる更新投資が必要であるものと考えられる。今後は経年化は進行するため、費用対効果を十分に検討しながら対策を行うことが必要である。

全体総括

全国平均、類似団体平均と比較すると、経営状況は良好である。更なる改善をめざし収益をあげる努力を行うとともに、引き続き経費削減に努めることが必要である。今後の人口減少にともなう料金収入等の動向を見据えながら、収益確保や計画的な設備投資を行うことが求めらるとともに、将来的な現有施設の改廃等についての検討を進めていくべきである。老朽化対策は概ね順調に進んでいるが、管路経年率は高水準であり、また、減価償却率が比較的高い状況に変わりはなく、早期に事業を拡大する等対策への投資を推進すべき状況である。現況では経常損益、債務残高が良好であるものの、管路更新率は低く投資控えの状況にあるため、今後は更なる老朽化対策事業を早期に実施していくことが望まれる。